

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

● 第125回 ●

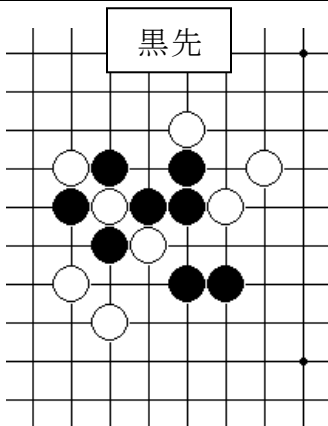
■詰連珠ドリル(続)

今回も詰連珠ドリルについて述べていきたい。一番の悩み事はレベルをどう設定するかで、難しすぎてもいけないし、物足りなくともいけない。百問作るのでバリエーションも必要である。ということと、各レベルの問題をいくつか見てもらおう。

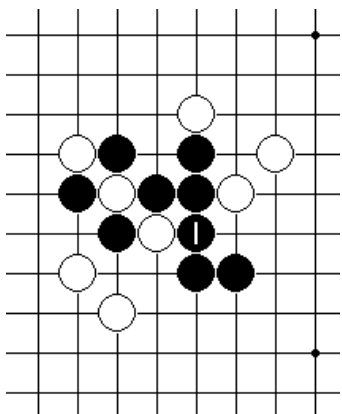
【入門編】

入門編は一手四三になるような問題である。一手なので、似た形ばかりになりそうだが、結構バリエーションを多く作れる。余詰めがあまり発生しないので作りやすい。毎日10問ぐらいは簡単に作ることができる。パソコン上で石を適当に並べてそこから作ったりもし

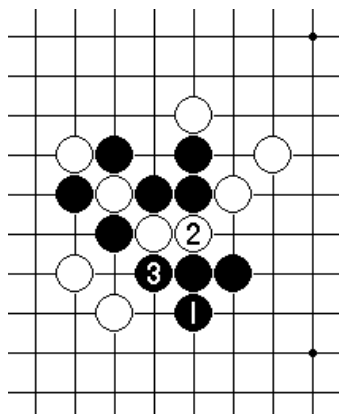
ていた。では、まずは問題を見ていただこう。



ぱつと見て三が残っている？と思えたらそれはもう入門編クリアである。



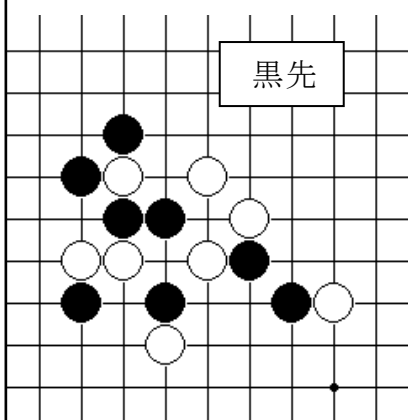
実際には黒1は四々で打てない。まずはこれを理解してもらおうのが目的の一つである。正解は見えにくいトビ四の方である。



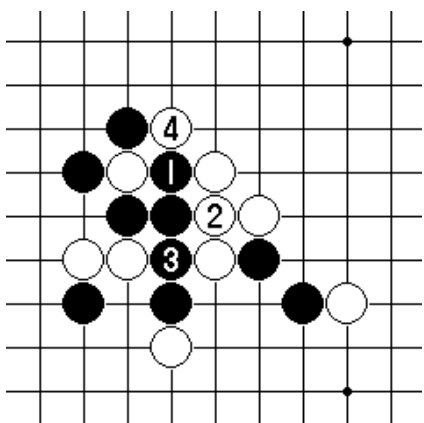
黒1の四三を見つけてもらうのが一番の目的ではないが、白2がノリ手になっていることもぜひ理解してほしいと願っている。

【初級編】

初級編は三・四三がベースになる。2回の四追いも有効である。

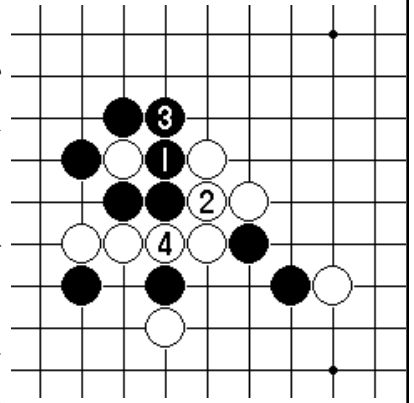


連珠を知らない方にとってはどこから手を付けたらいいか迷うだろう。斜めの四が見えるかどうかはまず重要である。2回の四追いは頭の中で石をつなげないといけないので、これができれば初級レベルはクリアしている。あとはそれを前提にして少し罫を仕掛けておいて、何度か繰り返してもらおうというのが狙いである。

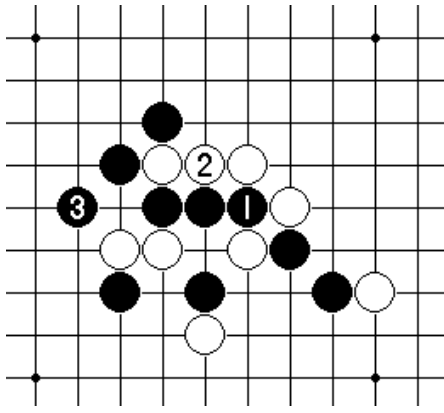


黒1、3で四三を作ってくれば白4がノリ手！になっていく。これは気づきにくい罫である。

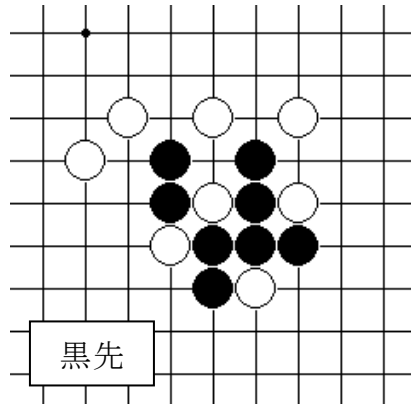
かと言って黒3と上に抜けようとすると白4がノリ手になっている。



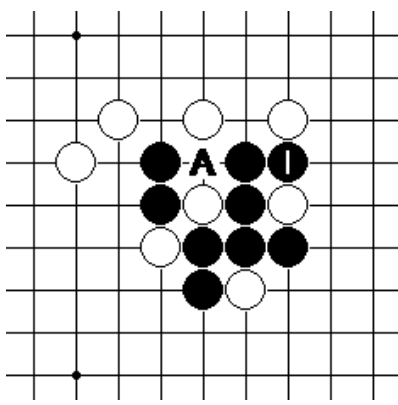
正解は、こちらに四を打つ手になる。そもそも黒3の点は三々だったので、1



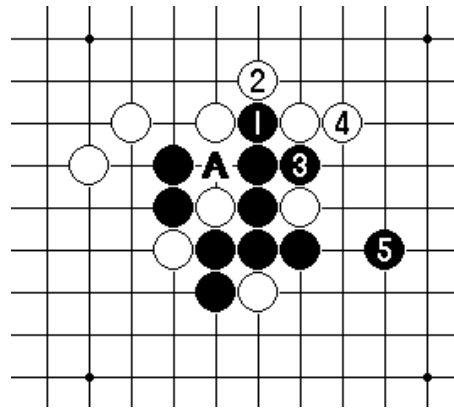
個加えて四三にするという基本的な手筋も覚えられる。
【中級編】



中級編は三・三・四三がベースになる。また、禁手をどう扱うかも考える所だ。

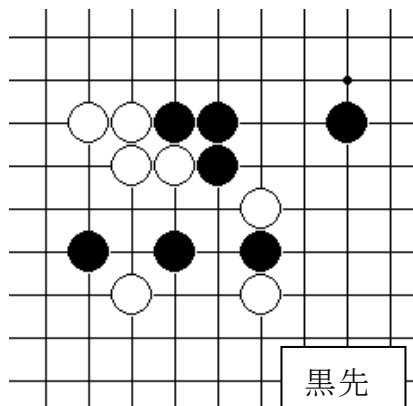


黒1と打ちたいが、三々で打てない。同様にAも三々で打てない。



どこに打てばいいのかさっぱりわからないが、正解は黒1と打ってから3を打つのが正解。黒1の効果で、黒3が三々でなくなる。(A点が四三々になるため)。これは連珠特有の打ち方で、中級編からは逸脱しているかもしれない。ただ、こういう禁手を理解するのが本当に楽しむためには必要だと思っている。
【上級編】

最後に上級編。手数が増えるというものが普通の考えだろうが、手数は増やさずに難度を上げた。



正解は黒1から5までのノリ切り勝ちになる。1を4はノリ手だ。

